

1 親育ち応援学習プログラムの概要

1 プログラムの目的について

「親育ち応援学習プログラム」は、これから親になる若い世代の方から、現在子育て真っ最中の方、そして孫育て期の祖父母世代の方まで、幅広い世代の方を対象にした「親育ち」を応援するために開発したプログラムです。

このプログラムの目的は、子どもの健やかな成長とともに、互いに子育てについて学び合い、保護者として育ち合うことを支援することです。

現代社会においては、核家族化の進行や地域における地縁的なつながりの希薄化などを背景に、子どもにどのようにかかわっていけばよいかわからず悩みや不安を抱えながら子育てをしている保護者、孤立感を募らせている保護者等が増えてきています。子育てに関して困ったことがあったとき、同年代の子どもを育てている方や子育て経験者の方など、身近な地域で気軽に相談できる人がいたら心強いのではないのでしょうか。

このプログラムでは、保護者同士や若者同士、祖父母、地域の方が交流しながら、子育てについてともに気づき、楽しく学び合うことができます。みんなで集まって交流しながら、身近なエピソードや資料等をもとに話し合うことにより、「悩んでいるのは自分だけじゃなかったんだ」「このやり方でよかったんだ」と互いに共感し合ったり、「そう考えれば気持ちが楽になる」「こういうやり方もあるんだ」と主体的に学んだりすることができます。そして、参加者同士がつながり合い支え合うきっかけづくりにもなります。

身近な地域で、気軽に活用することのできるプログラムですので、乳幼児健康診断の機会、保育所や幼稚園などの懇談会、PTA研修会、子育てサロンの勉強会など、子育てに関わる様々な場面で活用していただきたいと思います。

2 リニューアルの視点について

親育ち応援学習プログラムは、平成22年に作成され、以降時代のニーズに合わせてプログラムを追加していき、令和7年現在は39プログラムとなっています。作成から10年以上が経つプログラムもあり、近年の社会変化や男女共同参画の意識の高まりを受け、令和6年度から令和7年度にかけて、グラフ等の資料の更新や表現等の見直しをするといったリニューアルを実施しました。また、ファシリテーター等がアレンジしやすいようプログラムをデータ化したものを掲載しております。

3 プログラムの特色と構成について

★プログラムの特色

親育ち応援学習プログラムは、講演会や講義などのように、講師の話を参加者が一方的に聞いて学ぶのではなく、身近なエピソードや資料などをもとに参加者同士が話し合い、交流しながら、主体的に学ぶ、「参加型の学習プログラム」です。

参加者が安心して意見を出し合い、話を聞けるように、ファシリテーター（学習活動を支援し促進する人）が、アクティビティ（学習活動）を進行していきます。参加者は、グループでの話し合いなどを通して、自分にとって必要な知識やスキルなどに自ら気づき、主体的に学んでいくことができます。参加者みんなの力で、それぞれが自分に合った答えを見つけていきます。

～「参加型の学習プログラム」とは～

参加者が自らの知識や体験をもとに主体的に参加し、互いに学び合うことで、豊かな人間関係を育む力や積極的に課題解決に取り組む意欲、行動していく力が育まれていくプログラムです。

参加者中心の学習であり、参加者が他者の意見や発想から気づき、学び合い、最後に振り返るという一連の学習過程で「学び」を大切にしています。そして、学習後に学びを実践しようとする意欲が生まれ、参加者の変容につながります。

★プログラムの構成

親育ち応援学習プログラムは、5つのステージ、39の学習プログラムで構成されています。保護者だけでなく、次代の親となる中・高校生から、祖父母をはじめ子育てを支援する幅広い年代の方を対象に、子どもの年齢や発達課題等に応じて内容を設定しています。参加者の関心によっては、違うステージの内容を選んで使用していただくこともできます。

I 子育て準備期中・高校生、まもなく親になる方を対象にしたプログラム

II 乳幼児をもつ保護者を対象にしたプログラム

III 学童期の子どもをもつ保護者を対象にしたプログラム

IV 思春期の子どもをもつ保護者を対象にしたプログラム

V 祖父母をはじめ、子育てを支援する幅広い年代の方を対象にしたプログラム

4 プログラムの流れについて

プログラムによって多少の違いはありますが、学習活動は、だいたい次のような流れで進められます。

★標準的な学習の流れ

時間	学習活動	学習活動のポイント・留意点等
<p>導入</p> <p>10～15分</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 学習のねらい • 3つの約束 • アイスブレイク • グループ分け 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の趣旨を分かりやすく伝えます。 ○ 始めに参加者全員で3つの約束（P11）を確認し、互いに尊重し、みんなが協力しながら学習できるようにします。 ○ 参加者同士が打ち解けられるような雰囲気づくりをします。 ○ 話し合い等の活動がしやすい人数でグループをつくります。 
<p>展開</p> <p>30～60分</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 学習活動 <ul style="list-style-type: none"> ┌ 個人で ├ グループで └ 全体で 	<ul style="list-style-type: none"> ○ エピソードや資料等をもとに、個人やグループで学習活動を行います。 ○ 互いに意見を出し合いながら、楽しく学び合います。 ○ グループでの活動において出された意見等を全体に紹介します。 ○ 話し合い等がスムーズに進んでいない場合は、ファシリテーター（進行役）がサポートします。 
<p>まとめ</p> <p>10～15分</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ふりかえり 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習活動を通して感じた「気づき」や「学び」を記入し、みんなで共有しながら考えを深めます。

5 プログラムの活用場面について

★こんな場でプログラムを使ってください。

子育て講座
(公民館・保健センター等)

体育、保健体育科、
家庭科の授業等
(学校)

入学説明会
PTA研修会
保護者会

家庭教育学級
(保育所・学校園)

子育てサロン
子育てサークル

乳幼児健診
就学時健診

企業内等での研修
(おかやま子育て応援宣言企業等)

親同士の交流の場
祖父母同士の交流の場
若者同士の交流の場
地域の方の交流の場



※託児を用意するなど、参加しやすい体制を整えるようにしましょう。

6 ファシリテーターについて

★ファシリテーターの役割

学習活動を支援し促進する人を「ファシリテーター」（進行役）とといいます。ファシリテーターの役割は、参加者みんなが安心して学習に取り組めるように工夫したり、学習効果が高まるようサポートしたりすることです。

ファシリテーターは、次のようなことに留意しながら実施しましょう。また、初めて実施される方は、事前にファシリテーター経験者等と一緒に実施を経験しておく方がよいでしょう。

（１）参加者が自ら気づき、主体的に学ぶ力を引き出しましょう。

グループでの話し合いなどを通して、参加者自身もっている力を引き出すようにしましょう。内容を分かりやすく説明したり、参加者の話から質問を変えてみたりするなど、臨機応変に進行することが大切です。

自分の子育てに自信をもち、楽しみながら子育てをしていくことができるように、参加者自身もっている力を引き出しましょう。

（２）参加者の発言をしっかり受けとめ、上手な聞き手になりましょう。

参加者同士が語り合うことを中心に、学習を進行しましょう。そのためには、ファシリテーターは、「上手な聞き手」になることが求められます。

参加者一人ひとりの発言をよく聞き、相づちを打ったり、共感したりすると、話し手は安心し、語りやすくなります。そして、話し手の思いに焦点を当てたり、要点を整理して言葉を返したりしていくと、話し手自身が客観的に自分を見つめ、自らに気づきやすくなります。

（３）互いに尊重し、全ての人に参加できるように配慮しましょう。

参加者同士が互いに尊重し、みんなで協力しながら学習できるように配慮しましょう。「一部の人が一方向的に発言している」「他人の意見を頭から否定している」ということがないように、学習を始める前に参加者全員で確認しておくことが大切です。（11 ページ参照）もし、好ましくない状況になっている場合は、適宜アドバイスして流れを変えましょう。

ファシリテーターは、みんなが平等に話すことができる雰囲気づくりができていないか、全体の様子に常に気を配りましょう。

※学習を進めるに当たっては、様々な立場の人が参加している場合もあることを想定して、十分な配慮をしましょう。

(4) 流れの調整をしましょう。

参加者が活動や作業の手順を理解しているかどうか、時間が足りているかどうかなど、確かめながら進めましょう。参加者に合わせた進行を心がけ、流れの調整をしながら、学習を進行しましょう。計画通り進行しないことも予測して計画しておくといでしょう。

(5) 参加者同士がつながり、関係が築けるよう配慮しましょう。

参加者の中には、地域で孤立しがちな人や家にこもりがちな人、他人との付き合いが苦手な人もいることが考えられます。

このプログラムを通して出会った参加者同士が、学習後もつながり合い、支え合っていくことができるようになることが理想です。

ファシリテーターは、参加者同士がつながり合うことができるようコーディネートしましょう。

(6) 深刻な問題は関係相談機関を紹介しましょう。

学習活動の中、あるいは学習後に、いじめや虐待、DV等の、深刻な問題について相談を受けることもあります。

相談者の思いを受けとめ、適切な関係機関に相談するようアドバイスしましょう。そのためには、関係相談機関についての情報をもっておき、安心して紹介できるようにしておくといでしょう。

関係機関へ紹介するときは、相談者の信頼感を得ながら、責任をもって丁寧につなぎましょう。

★実施の計画

(1) プログラムの選定

ファシリテーター（及びスタッフ）は、どのような方を対象に、どのような内容（ねらい）の学習を実施するのか検討し、プログラムを選定します。

参加者の実態に合わせて、プログラムは自由に修正してもかまいません。また、違うステージのプログラムを使うこともできます。参加者の状況や人数、使用する場所や時間等に応じてアレンジし、効果的に学習できるように十分に検討しましょう。

※Ⅱ-14、Ⅱ-15、Ⅱ-16については、就学前の非認知能力育成支援講座と連動したプログラムであるため、アレンジ不可となります。

(2) 実施するスタッフ

ファシリテーターとして、このような学習活動を進行することに慣れていない場合は、一人で実施してもかまいません。しかし、参加者の人数や場所等の状況によっては、複数のファシリテーターで実施する方がよい場合もあります。また、進行の補助（受付や資料の準備等）をする人がいれば、よりスムーズに進行できます。

(3) 学習の形態

グループにおいて話し合いや作業等の活動がしやすい人数は、4～6人です。あらかじめグループ分けをしておいてもかまいませんが、参加者の状況を考えて編成し、仲のよい人ばかりで構成されないように配慮してください。アイスブレイクを行う中でグループを編成することもできます。参加者の状況や学習のねらい等に応じて学習の形態を検討しましょう。

★プログラムの使い方

親育ち応援学習プログラムは「学習の進め方」「ワークシート」「資料」で構成されています。「学習の進め方」には、各プログラムの学習活動の展開例を掲載しています。ファシリテーターは、学習を進めるにあたり参考にしてください。必ずこのとおりにする必要はありません。参加者の状況や人数、使用する場所や時間等に応じて効果的に学習できるようアレンジ（打ち替えて印刷等）してご活用ください。

<学習の進め方例>

I 子育て準備期中・高校生、まもなく親になる方を対象にしたプログラム			
I-2 子どもをもつということ			
対象：子育て準備期の世代 時間：50分程度			
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「子どもをもつ」ことについて、「子どもをもつことの意味」や「子どもを社会で支えることの意味」を、話し合いをとおして深めていく。 ○ グループでの意見を共有するとともに、特に参加者各自の考えを深めることができる。（ワークでは自分の言葉で記入する時間をしっかりと取るようにする。） <p>「子どもをもつことの意味」や「子どもを社会全体で支える」ということについて、ワークを通じて考えを深めることができる。</p> <p>あらかじめ4人程度のグループに分かれておく。</p> <p>筆記用具 ○ ワークシート ○ アンケート用紙（必要に応じて） 資料 ○ 名札 ○ 付せん紙 ○ 油性マーカー ○ A3の紙</p>		
時間	学習活動	学習活動のねらい(◎)とポイント(●)	準備物
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークの参加説明 ・3つの約束 ・アイスブレイク 	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた考えを出しやすい雰囲気をつくる。 ・自己紹介により互いに親近感がもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 名札 3つの約束
10分	<p>ワーク1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子ども」という言葉を聞いて、連想する言葉をグループで話し合う。 	<p>◎「子ども」と聞いて、連想する言葉を出していくことで、「子ども」に対して、様々な捉え方があるということについて、気付くことをねらいとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初は、一人で付せん紙に書き出す。 ・次に、グループで一人ずつ発表する。 ・最後にグループ内でA3の紙に付せん紙から、自由に話し合う。その際、似た意見の集まる。 ・プラスのイメージとマイナスのイメージを両方出せることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 付せん紙 A3の紙 油性マーカー
20分	<p>ワーク2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エピソードをもとに、グループで話し合う。 	<p>◎「子どもと一緒にいると幸せ！」「自分の子どもではないのだから」「いつか子どもをもちたいな」のエピソードを読み、エピソードから感じたことを考えたり、子どもをもつことの意味や子どもを社会全体で支えるということについて思いを深らしたりすることで、子どもをもつことの意味について多面的・多角的に考えることをねらいとする。また、「子どもをもつということ」が、社会的には当たり前と思われている傾向があること、「子どもをもつということ」は当たり前でないことなど様々な視点から考えることができる。とする。</p> <p>(資料は、参加者に合わせて選択してもよい)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エピソードを読み、感じたことをワークシートに記入する。 ・グループ内で発表し、共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 必要に応じて提示 資料1の① 資料1の②
10分	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想を記入する。 ・名前発表し、全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な考えがあってもよいことを伝える。 ・個人かに発表してもらい、全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート

学習活動の大まかな流れを示しています。

◎は各ワークのねらいを示しています。

「ワークシート」には、各プログラムで活用できるワークシート、エピソードや書き込み欄、参考となる資料などを掲載しています。そのまま活用するだけでなく、部分的に活用して下さってもかまいません。学習の場面に応じて、効果的にご活用ください。

<ワークシート例>

Ⅱ-3 子ども同士のトラブル…どう解決する？ (3～4歳児)

ワーク1

- 最近のお子さんに見られた子ども同士のトラブルを思い出し、気楽に出し合ひましょう。

エピソードや資料などをもとに、参加者が互いに感じたことや経験を出し合ひます。

ワーク2

【エピソード】

子育て広場でのこと。子育て広場にある三輪車に乗っていたユリさんが、そこに三輪車を置いてままトイレに行きました。戻ってみると、その三輪車にショウくんが乗っていました。ユリさんは「返して！」と言いましたが、ショウくんは「ボクが今使っているんだよ！」と言い返し、返してくれません。三輪車の取り合いになり、ユリさんは泣いてしまいました。それを察していたショウくんのお母さんは、「ユリさんが乗っていたので、返さない！」と怒りました。近くには、ユリさんのお母さんもおられました。

- ユリさんとショウくんとショウくんのお母さんの気持ちについて話し合ひましょう。
- ショウくんのお母さんだったら何と言うか話し合ひましょう。
- ユリさんのお母さんだったらどうするか話し合ひましょう。

互いに意見を出し合ひながら、学習を進めていきます。



資料 **トラブルの経験は次の段階へのステップです**

3歳児から4歳児にかけて一人遊びから友達と遊ぶことが増えてきます。他の子どもと触れ合うことで、自分の感情や意思を表現し、自己の存在や他の人々と共に活動する楽しさを経験します。時には子ども同士が自己主張をぶつけ合うこともあります。しかしそういった中で互いに理解し合う体験を重ねながら関わりを深め、共感や思いやりなどもつよくなります。さらにこのような生活の中で、よいことや悪いことに気づき、考えながら行動したり、決まりの大切さに気づき、守ろうとしたりするなど、生活のために必要な感情や態度を身につけていきます。大人はそれまでの子どもの経験を容認し、相手の気持ちをわかろうとしたり、遊びや生活をよりよくしていくとしたりする姿勢を丁寧に伝え、認め、励ましていくことが大切です。子どもが自分で思いを伝えあおうとする姿を十分に認め、変えていくことも大切です。

「保育所保育指針解説」(厚生労働省/平成30年)をもとに岡山県教育庁生涯学習課が作成

ワーク3

- 気づいたことや

話し合いや学びを深めるための資料等を掲載しています。

直接書き込むことができます。

「資料」には、プログラムを進行する上で参考となる資料や、活用できる資料等を掲載しています。適宜ご活用ください。

親育ち応援学習プログラムは、ステージごとに、3～16のプログラムがあります。全てを連続講座用としても使用できますが、場合によってはその中のいくつかのプログラムを使用してもかまいません。また、違うステージのプログラムを使用してもかまいません。

また、「3つの約束」や「参加者アンケート」、簡単に実施できる「アイスブレイク集」も掲載しています。学習の導入、振り返りなどで適宜ご活用ください。

なお、このプログラムは、参加者の状況や人数、使用する場所や時間等に応じて効果的に学習できるようアレンジ（打ち替えて印刷等）して活用することは可能ですが、プログラムに掲載されているイラストに関しては、無断で転用及び改変することはできません。

7 参加者に心がけてもらいたいことについて

★学習を始める前に参加者全員で確認しましょう。

親育ち応援学習プログラムは、参加者の皆さんが主体的に参加しながら、共に楽しく学び合い、皆さんで作りに上げていく参加型の学習プログラムです。

「今日の学習に参加してよかった。」

「この人に出会えてよかった。」

「自分の思いを聞いてもらえてスッキリした。」

「こんな見方や考え方もあるんだ。」

「何か始めてみよう。」

など、このプログラムを通して皆さんがこのような思いをもっていたら、大成功です。そのためには、参加者皆さんの協力が欠かせません。

導入場面において、参加者（ファシリテーターやスタッフも含めて）全員で、「3つの約束」を確認し、安心して参加できる雰囲気づくりに努めましょう。

3つの約束

（1）参加者はみんな平等です。

参加者（ファシリテーターやスタッフも含めて）は、みんな平等です。一人の人が話しすぎないように、みんなが発言できるように心がけましょう。平等に学び合える場になるよう、みんなで考えましょう。

（2）互いの意見や感じ方を尊重しましょう。

他の人の意見をしっかり聞き、意見を尊重しましょう。他人の意見を否定したり、自分の考えを押しつけないようにしましょう。自分とは違う意見を知ることは、新たな視点で自分を見つめるきっかけとなります。

また、話したくないことは「パス」してもかまいません。他の人の話を聞いて考えることも大切な学習活動です。個人の思いを尊重しましょう。

（3）参加者の秘密を守りましょう。

子育てに関する学習プログラムですので、個人（あるいは家族）情報に関わる内容が出てくることもあります。同じ時間を共有する中で、参加者同士に信頼関係ができ、安心して自分や家族のことについて話ができて、学習が深まります。

学習する中で知った参加者の個人情報、その場だけのこととし、他の人に話さないようにしましょう。